

# ひかりのこ

1月園便り

聖ミエル幼稚園  
2020年1月20日

## 月主題：取り組む

### 「黒豆」

あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしく願いいたします。

お正月、皆さんはどのように過ごしましたか。ご家族やご親戚で集まって楽しく過ごされた方も多かったのではないのでしょうか。私も88歳になる両親の家に、私たち子どもたち、孫たち、ひ孫たち総勢19人が集って、おせち料理を食べたり、百人一首をしたりしました。

おせち料理と言えば、私は毎年おなます、うま煮、きんぴらごぼう、そして黒豆の煮豆を必ず作ります。今年は初めて、自分の畑でとれた黒豆を使いました。

私の畑は野幌にあり、年長さんのジャガイモも私の畑で作ります。もともと農家の方が所有していただけあって、土がふかふかのとても良い畑です。毎年春になると、夫と共に耕運機を使って土を何度も耕します。そして、ジャガイモ、大根、ズッキーニ、インゲン、玉ねぎ、小松菜、ホウレンソウ、カブ、枝豆、とうきびなど、たくさんの野菜のたねを植え付けます。

育てるのはとても大変です。雑草をとったり、液肥を含ませた水をまいたり、まるで子育てみたいです。収穫も時機を逃すと、大根はとうがたってしまうし、とうきびは固くなってしまいます。

今年の枝豆は大失敗でした。9月の終わりごろの土曜日に収穫の予定でしたが、孫のお守りが入って、次週に収穫を伸ばしたところ、豆が熟しすぎて固くなってしまったのです。あきらめて大豆と黒豆に熟成させることにしました。

そんな偶然の中でできた豆たち。12月に夫とテレビを見ながら一つ一つさやから外し、黒豆と大豆に色分けをしました。

自分で作った黒豆は、愛着があります。芽出しは大変だったなあ、とか、炎天下の雑草取りはきつかったなあ、とか思い出しながら、あくを丁寧にとり、ぐつぐつ豆を煮ます。

スーパーで出来合いを買ってしまえば、簡単なことですが、見た目は同じでも、全く意味の違うものが出来上がります。いつもは手抜き料理が多い私ですが、一から丁寧に作ったこの黒豆は、なんだか、「いのち」とつながった食べ物のように感じるのです。

こんな経験を子どもたちにもさせたいと感じます。子どもたち

の小さな手が、自然の恩物をじかに触り、自分が育てた野菜のお料理を小さなお口に運び、そのおいしさに大喜びする。「いのち」をじかに感じる経験をもっともっとさせたいと願います。  
北海道の冬の自然と言えば、やはり雪遊び。今年は記録的に雪が少なくがっかりですが、できるだけお外に出て、雪遊びを楽しみたいです。

園長 渡部 良子

## キリスト教保育

### 「灯台のように」

世の中にはいろいろなマニアがいるのですが、灯台が好きという人もかなりいて、インスタグラムなどを見ると、日本国内や世界の美しい灯台がたくさん紹介されています。私もこのところ灯台に惹かれていて、車で遠出して灯台を見つけるとじっと眺め、写真を撮っています。砂浜や断崖絶壁の上で、雨の日も嵐の日も、灯台は光り続け、沖を行く船の安全を守っています。どんなに船の電子機器が発達しても灯台はなくなることはないでしょう。その姿を想像すると、つい愛おしくなります。

札幌から一番近い石狩灯台は、初夏にはハマナスなどの花が咲き、晩秋にはすすきがそよぎ、周辺に散策用の木道が通っています。しかし、冬は人を寄せ付けない厳しい暴風雪に見舞われます。その中に赤と白に塗られた灯台が凜として立ち続けています。近くに春と夏だけ営業するカフェもあります。ぜひ、訪れてみてください。

聖書では、「光」はとても大切なメッセージを含んでいます。「あなたがたは世の光である」というイエス様の言葉もあります。人間は暗闇の中では、ほんの小さな明かりでも安心を感じ、力を得ることが出来るものです。もう少しで卒園していく子どもたちは、これからも神さまの光の中を歩み、そして、子どもたち自身も、灯台のように光を発し、周りの人に安心と力を与えるようになって欲しいと願っています

チャブレン 司祭 下澤 昌